

令和7年度ひろしま自然保育推進事業 活動報告書

令和8年4月13日

団体所在地 廿日市市串戸二丁目13-3

団体の名称 社会福祉法人にこぷらす

職・氏名 宮島こども園長 田中聖也

(施設名 公私連携幼保連携型認定こども園宮島こども園)

1 活動報告

【4月～6月】(春季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- ・草花遊び
- ・生き物見つけ
- ・菜園活動
- ・干潟観察
- ・泥遊び&田植え
- ・自然公園散策
- ・地域の農園の活動(野菜の収穫、農園内散策)

【7月～9月】(夏季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- ・川遊び
- ・生き物見つけ
- ・海遊び
- ・菜園活動
- ・自然公園散策

【10月～12月】(秋季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- ・稲刈り
- ・もちつき
- ・地域の農園の活動(野菜の収穫、農園内散策)
- ・秋探し(木の実拾い、葉っぱ拾いなど)
- ・自然公園散策
- ・シーカヤック体験
- ・菜園活動(冬野菜の種まき苗植え、収穫など)

【1月～3月】(冬季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- ・冬探し(霜柱、氷、花など)、雪遊び
- ・自然公園散策
- ・氷作り
- ・チャレンジ登山(弥山)
- ・地域の農園の活動(ブーケ作り、散策)
- ・シーカヤック体験

活動報告（詳細）

1シーズンにつき最も印象的だった活動のエピソード1つご記入してください。

エピソードは、活動プロセス、保育者の関わり、子どもの育ちの見取りを端的にお願いします。

写真は基本1枚です。

【4月～6月】

（写真）



（エピソード記述）

草花が一気に咲き始め生き生きと萌える春。次々に咲き出す花や、芽吹きだす草花を摘んできては、子どもたちと草花遊びを楽しみました。草花をちぎった時に出る匂い、色鮮やかな色や、様々な形。生きているものをふんだんに使って遊んでいく事で感じるものがたくさんあり、子どもたちは夢中になって遊んでいました。ままごとをしたり、音を鳴らして遊んだり、お気に入りの草花を見つけて歩いたり、飾ったり、そこからお店屋さんをしたりしていました。職員も、子どもたちがより楽しめるように環境を整える事を楽しんでいました。新しい草花を見つけると、見たことのない草花に子どもたちが目を輝かせ、木を削って木のナイフを作ると、ままごとがより一層楽しそうになったりと、子ども達の感性を大切にすることができました。

【7月～9月】

（写真）



（エピソード記述）

川や海などでの活動が多い夏。各フィールドで、水辺の生き物との関わりやダム作りなどを楽しんでいます。浅い水辺が基本的な活動場所ですが、深いところにも行ってみたい3～5歳児さん。今年は、新たな試みで、『水に顔をつけられること』と、『ライフジャケットを着て、犬かきから仰向けへの姿勢変更ができること』が条件の“検定”を設定してみました。検定に合格したら、深いところへも自由に行くことができると話をしました。実際に行い始めると、水に顔をつけることも、足が届かないことも、初めての経験で“恐怖”を感じ諦めたり、涙を流しながらも挑戦を続けようと葛藤したりと様々でした。挑戦を続ける子は、次第に克服していき、合格していない友達を応援するような姿も見られました。自然からの教訓や“恐怖心”という自分の身を守る大事な感情も、経験できたのではないかと思います。

【10月～12月】

(写真)



(エピソード記述)

森で見つけた一本の野生のきのこ。スーパーでしか見たことがなく、その不思議な魅力に、まずは職員が夢中になりました。活動の度に、職員が本気できのこを探すようになり、大人が本気で楽しむ姿に、子どもたちの好奇心も爆発！いつもの散策ルートでも「き、き、きのこー♪」と、きのこを探すことを楽しみながら歩くようになりました。

そんな中、部屋では、ついにきのこ栽培キットを導入！きのこが生えるまでをみんなで観察しました。収穫をする時は「不思議なおいがする！」「ぶにぶにだよ！」「なんかくさーい」などと、五感で楽しむ大興奮の収穫祭になりました。さらに、給食の先生にお願いして自分たちで採ったきのこを献立に入れてもらおうと、苦手だった子も「自分のきのこだ！」と誇らしげに完食！

収穫後も興味を持った子たちが、せっせと水やりを頑張っています。一本のキノコから始まった物語は、子どもたちの好奇心をたくましく育ててくれました！

【1月～3月】



(エピソード記述)

ある日のお散歩中、風に揺れる小さな「白いフワフワ」を見つけました。「わあ、これ何だろう？」保育者の呟きに、子どもたちも興味津々に集まってきました。「これ、なに？」「すごーい！」と、目を輝かせる子どもたち。

園に戻って調べてみると……見つけると幸せになれるという『ケサランパサラン』にたどり着きました。※おそらく、サカキカズラの種子です。

その日から、園内はちょっとした「ケサランパサラン・ブーム」に。戸外活動に出るたび、「あ！また見つけたよ！」「こっちはもっと大きい！」と、大人も子どもも宝探しをしているような大興奮に包まれます。子どもたちは、空飛ぶフワフワを追いかけては「フワフワ、あった！」と大切に届けてくれたり、「あっ！あっ！」と指をさして小さな発見を教えてくれたりするようになりました。

そんなある日のこと、いつもは見ることのできない「殻に入ったままのケサランパサラン」を奇跡的に発見しました！

「お部屋に置いておいたら、出てくるところが見られるかも！」というワクワクするアイデアが飛び出し、大切に部屋で見守ることにしました。

しばらく日が経つと……。殻が少しずつ、ゆっくりと割れ、中から真っ白いフワフワが顔を出してきました！その変化に気づいた子が、「見て！」と弾けるような笑顔でみんなに報告してくれました。

小さな殻から現れたフワフワ。子どもたちの好奇心という風に乗って、次はどんなワクワクを運んできてくれるのでしょうか。

2 その他（自然体験活動の実施における今年度のプロセス）※記入必須

- ・ 職員の資質向上について

（例）こども環境管理士を担当保育士が取得（12月）

自然の中で遊ぶことの研修【基礎編】（5月）

救命講習【水難事故】（6月）

ぐうたら村研修（12月）

救命講習（1月）

県主催の自然保育資質向上研修（各回）

- ・ 地域との関わりについて

（例）専門知識のある地域の方に園庭のぶどうの木の選定や野菜づくりを月一回交流（毎月）

田植え、収穫体験（5月、10月）

地域の農園の方に、園庭の畑の土づくりや野菜栽培の指導（毎月）

農園での活動のサポート

シーカヤックのガイドの方にシーカヤック体験の指導（12月、3月）

- ・ 保護者との関わりについて

（例）果物や野菜を保護者と一緒に収穫（毎月）

保育参加を行い、季節毎にフィールドを変え、一緒に遊んでいた。

お迎え時の時に、子どもや職員が行っている手仕事（柿の皮むき、落ち葉の整理など）を手伝っていただいた。

- ・ その他

＊より詳しく活動をアピールしたい施設は、ホームページやSNSのURLをご記入ください。

U R L	https://www.instagram.com/niko_miyajima/?__pwa=1
-------	---